令和６年度

教育子育てに関する

要　望　書

富山市 PTA 連絡協議会

ご 挨 拶

平素より、市内小中学校教育の振興に格別のご高配を賜りますとともに、PTA 活動に深いご理解とご協力をいただいていることに、厚く御礼を申し上げます。

私たち富山市 PTA 連絡協議会は、「子どもたちの真のしあわせのため、持続可能な PTA をやってみよう」のスローガンのもと、子どもたちの健やかな成長と PTA 活動の発展を推進するという目的を掲げ、貴職をはじめ富山市教育委員会や富山市の教育子育てに携わる皆様とともに積極的に活動しております。

新学習指導要領の改訂における主体的な学びの実施により、これまでの教育とは大きく変化してきています。不登校児童生徒の増加、部活動の地域移行、少子化による学校再編、教職員の働き方改革の推進、物価の上昇による子育てにおける経済負担の増加など、様々な事象が複合的に絡み合って社会的な問題として全体に広がって来ています。その変化に対応し誰ひとりの子どももとり残されることが無いよう、我々PTA も学校と地域と協力していくことが必要です。

富山市 PTA 連絡協議会では、子どもたちを取り巻く様々な環境を正しく理解するとともに、熟慮し、協議してきました。教職員をはじめ子どもたちにかかわるすべての人々が、やりがいを感じ楽しみ、子どもたちとしっかり向き合い、その中で子どもたちが安心して学校生活を送る、そのような社会を実現するために、子どもたちの未来がより良いものになるように、要望書としてまとめさせていただきました。

今後とも、子どもたちの真のしあわせの為に、教育環境の整備と子育てに関する支援を推進していただき、子どもたちの健やかな成長に力強いご支援を賜りますとともに、富山市 PTA 連絡協議会への助成をはじめ、その他要望事項につきましても格別なご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

令和 7 年 1 月 24 日

富山市 PTA 連絡協議会

会長　飯倉　正和

要 望 事 項

＜学校に関すること＞

1)　何らかの支援を必要とする子どもたちへの支援体制強化
2)　発達障害等のある支援が必要な児童への就学時の情報周知
3)　校内サポートルームの拡充および支援員確保のための施策
4)　学びの多様化学校の整備と校内サポートルームとの連携
5)　次世代に向けた子どもの育成のための富山型教育や ICT の活用推進
6)　子どもたちの SNS トラブルへの対応と情報モラル教育の推進
7)　体育館および特別教室・支援教室への空調設備の整備

＜中学校に関すること＞

1)　部活動の地域移行に伴う学校施設の改修および保護者の経済的負担軽減
2)　子どもたち自らが将来を描けるキャリア教育・校外活動の推進
3)　家庭学習の充実と学校・家庭の連携強化

＜保護者や地域に関すること＞

1)　「tetoru」の運用改善と機能追加
2)　学校教育における地域・保護者の交流促進のための「親学び」関係事業への助成
3)　見守り活動継続のための交通安全プログラムの情報周知、環境整備および継続支援
4)　放課後の子どもの居場所確保と学童保育の充実
5)　コミュニティ・スクール(CS、学校運営協議会)の運営と地域参画の推進

＜先生（応援）に関すること＞

1)　教員の教務負担軽減とスクール・サポート・スタッフ(SSS)の拡充
2)　デジタル採点システムの導入による教職員の負担軽減
3)　学校運営のための学校の自由裁量予算の確保

要 望 の 概 要

＜学校に関すること＞

1） **何らかの支援を必要とする子どもたちへの支援体制強化**

保護者の約半数が必要と要望している児童生徒へのさらなる支援のため、県とも連携しながら各校にスクールサポーターの２名以上の配置、スクール・サポート・スタッフの増員、特別支援ボランティアや学習パートナーの増員など一層の支援体制の拡充を早急にお願いいたします。

2） **発達障害等の可能性のある支援が必要な児童への就学時の情報周知**

学校に行きづらい、教室に入りづらい児童が一層増えている状況です。その要因の１つとして、就学後も困難さを抱える児童の状況を保護者もわからないまま学校生活を送っていることが挙げられます。こうした児童に少しでも早く必要な支援が届くよう、就学時健診等の機会には保護者向けに発達障害等に関して保護者がその気付きになる情報の提供を行い、誰一人取り残さない教育がより実現されるようお願いいたします。

3） **校内サポートルームの拡充および支援員確保のための施策**

本年度から開設が始まった校内サポートルームは非常に多数の利用者がいる状況です。サポートルームには校長経験者等の支援員が配置されますが、担い手が不足し、必要な増設が出来ない状況です。経験者だけでなく、一定の講習等を受けることで支援員として配置できるような人材活用の方法も導入し、全校にサポートルーム設置が早急に進むようお願いいたします。

4） **学びの多様化学校の整備と校内サポートルームとの連携**

本年度設置に向けた検討予算も組まれている学びの多様化学校（不登校特例校）を早急に整備していただくとともに、各校に設置されたサポートルームとも連携することで、多層に渡る子どもの学びのセーフティーネットを構築し、様々な困難さを抱える児童生徒の学びの場を一層拡充されるようお願いいたします。

5） **次世代に向けた子どもの育成のための富山型教育や ICT の活用推進**

富山市内の全学校において「富山型イエナプラン的教育」と「問題解決型学習（PBL)」のさらなる推進を行い、子どもたちが地域差なく、公平に質の高い教育を学べるようその推進をお願いいたします。

6） **子どもたちの SNS トラブルへの対応と情報モラル教育の推進**

学校や家庭など周囲の大人が情報モラル教育を通して子どもたちにリスクを理解させ、SNS を安全に活用できる環境を整えることが必要です。PTA が行う親学びの機会ともあわせて、学校においても情報モラル教育の定期的な実施をお願いいたします。

7） **体育館および特別教室・支援教室への空調設備の整備**

体育館や特別教室、支援教室への空調設備が不足しており、授業中の熱中症リスクや災害時の避難環境が問題となっています。早急に空調設備の設置と体育館の断熱改修を要望します。

＜中学校に関すること＞

1） **部活動の地域移行に伴う学校施設の改修および保護者の経済的負担軽減**

休日でも学校施設がスムーズに利用できるよう部活動専用の出入口の設置や休日利用できる倉庫や練習施設の増設または改修が必要です。また、土日はクラブチームなどへの参加が増加することが予想され、送迎や費用の問題、さらには活動の運営支援といった保護者への負担が大きくなることに対する経済的負担を減らせるような費用等の支援をお願いいたします。

2） **子どもたち自らが将来を描けるキャリア教育・校外活動の推進**

将来を見据えたキャリア教育と校外活動の推進が重要です。近年、郊外活動が縮小傾向にありますが、子どもたちの将来のビジョンは、様々な経験や体験を通して形成されます。校外活動の実施と継続的な教育の整備をお願いいたします。

3） **家庭学習の充実と学校・家庭の連携強化**

家庭学習の形骸化が進んでおり、学校と家庭の連携が必要です。学校・市による情報発信と相談環境の整備をお願いいたします。

＜保護者や地域に関すること＞

1） **「tetoru」の運用改善と機能追加**

「tetoru」の運用上の差を解消するため、緊急情報と通常連絡を区別する機能の追加と運用の統一基準の策定をお願いいたします。

2） **学校教育における地域・保護者の交流促進のための「親学び」関係事業への助成**

地域全体で子どもたちを支える教育環境を構築するためにも、保護者同士の関係構築のための環境整備への支援をお願いいたします。

3） **見守り活動継続のための交通安全プログラムの情報周知、環境整備および継続支援**

地域の見守りボランティアが高齢化や人手不足で継続が困難になっています。交通安全プログラムの認知度向上と、情報の一元化による利便性向上を図り、見守り活動の効率化を進めること、そして、一定の雇用契約による地域人材の導入などの支援体制の強化をお願いいたします。

4） **放課後の子どもの居場所確保と学童保育の充実**

利用者の負担を減らし、子どもたちの居場所をより確保するために、公立学童保育（子ども会）の運営時間を延長することとあわせて民間学童（放課後児童クラブ）への助成を拡充することで利用料金の減額を図り、利用者の時間的負担と経済的負担の軽減することを本年度も再度お願いいたします。

5） **コミュニティ・スクール(CS)の運営と地域参画の推進**

コミュニティ・スクール（CS、学校運営協議会）の周知と地域・保護者の参画を促進するため、地域資源活用と予算配分をお願いいたします。これにより、地域全体がより良い教育環境になり得ます。

＜先生（応援）に関すること＞

1） **教員の教務負担軽減とスクール・サポート・スタッフ(SSS)の拡充**

教員の負担軽減のため、スクール・サポート・スタッフ（SSS）の労働時間を延長し、増員を求めます。また、学びのボランティアの増員も必要です。早急な支援体制強化のため、市から県への積極的な働きかけをお願いいたします。

2） **デジタル採点システムの市予算による全校導入**

一部の学校のみ導入がされている採点システムですが、その運用には PTA や後援会などの予算が使用されているケースが見受けられます。また、このシステムの活用により、教員の時間的負担も改善されている状況です。ついては、効果が出ている本システムは全額富山市の予算において早急に全校に整備されることをお願いいたします。

3） **学校運営のための学校の自由裁量予算の確保**

今後、コミュニティ・スクール（CS、学校運営協議会）が中心となり、地域との連携を強めた学校運営が求められています。地域の特色を活かした教育や行政が追い付かない支援人材のサポート等を含めて、それぞれの学校が地域の様々な資源を活かした取り組みを行い、より充実した学びの環境を整備するためにはコミュニティ・スクール(CS)または校長に自由裁量で使える一定の予算が必要です。地域との連携に配慮した教育予算の確保をお願いいたします。

記

＜学校に関すること＞

1）何らかの支援を必要とする子どもたちへの支援体制強化

・背景

何らかの支援を必要とする児童生徒（教員が対応に苦慮すると思われる児童生徒）は年々増加傾向にあります。通常学級において、授業に集中できない、友人と良好な関係を築くことが難しい児童への個別支援へのニーズは高まっています。通常の学級においても、約 10 人に 1 名の割合（35 人学級であれば 3 名程度）で何かしらの支援が必要な児童生徒がいる状況です。

※１　文科省令和 4 年度の調査によると、小中学校において学習面や行動面で困難を抱える児童生徒は全体の 8.8%にのぼり、支援が必要とされています。
（文部科学省、令和 4 年度、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について）

※２　本年度の当協議会の保護者へのアンケート結果では、約 50.0%の保護者が教員や支援スタッフの増員が必要と回答しています。

保護者としては、我が子に通常学級で教育を受けさせたいと願っています。しかし、このような児童生徒にはそれぞれ特性があり、支援員や保護者がその特性を理解し適切に対策しなければ、子どもにとって良い環境を提供することは困難です。さらに、特性のある、または疑われる児童生徒（教員が対応に苦慮すると思われる児童生徒）の増加に伴い、それらに知識のある支援要員の不足が課題となっています。

・要望

このような状況を踏まえ、

1、 市の予算でのスクールサポーター、スクールカウンセラーの増員。

2、 スタディメイト、スクール・サポート・スタッフの増員。

3、 学習ボランティアなどの支援員体制の強化について、県に対して積極的な働きかけ。

4、 これらの人材の確保のための対策の実施。

以上、これらの施策を早急に実施されるようお願いいたします。

2）発達障害等の可能性のある児童への就学時の情報周知

・背景

発達障害等の可能性のある児童（教員が対応に苦慮すると思われる児童生徒）が増加しています。小学校入学後、特性を持つ児童は日常生活や学習面で困難を感じ、学校生活が居心地の悪いものとなり不登校に繋がる場合もあります。

この状況の一因として、保護者が子どもの特性に気づいていない、あるいは、自分の子どもは違うと考えて医療機関や専門家に相談しないケースが多く、結果として適切な対応が行われていないことが挙げられます。

・要望

子ども一人ひとりの特性に合わせた対応が求められます。そのためには、保護者の理解や同意が不可欠です。以下の取り組みをお願いいたします。

1、 就学時健診の際に、保護者に向けて関連する情報を提供すること。
2、 保護者が支援の重要性を認識しやすくなるような取り組み、パンフレット配布や動画による説明などの情報発信をお願いいたします。

これらの取り組みにより、児童が適切な支援を受けられる環境を早期に整備することをお願いいたします。

3）校内サポートルームの拡充および支援員確保のための施策

・背景

今年度、不登校対策の一環として、小学校 8 校および中学校 9 校に新たに校内サポートルームが設置され、不登校傾向にある児童生徒への支援を目的に運用されています。この校内サポートルームは月に 100 名以上の子どもたちが利用しており、安心できる居場所として定着しつつあります。その結果、利用した児童生徒の一部は通常学級に復帰するなど、一定の成果が見られています。

しかし、校内サポートルームの運営においては、支援員の不足が深刻な課題となっています。現在、一部の支援員は退職された校長先生が担っていますが、このような適任者は限られており、今後の人材確保が大きな課題です。また、現状の校内サポートルームは教室復帰を目指した個別支援が中心で、進学・進級を見据えた長期的な対策が十分ではない点も課題となっています。

・要望

校内サポートルームの拡充を図るためには、支援員の確保が不可欠です。そのため、以下の取り組みを早急に実現してください。

1、市独自の「支援員特別教育制度（仮）」を設け、履修者が支援員となれる仕組みづくり。
2、学校ボランティアや地域住民による指導員の補助体制の早急な整備の実現と支援。

以上、これらの施策を早急に実施されるようお願いいたします。

4）学びの多様化学校の整備と校内サポートルームとの連携

・背景

昨年の、県内の不登校状態にある小学生は 856 人、中学生が 1336 人となり、7 年連続で増加しました。これは過去 10 年間で最も多い数字です。

さまざまな理由で学校に通うことが難しい児童生徒には、学校環境が合わない、自分のペースで学べないなど、多岐にわたる理由から登校が困難な状態にあります。そのため、不登校状態にある児童生徒にとって、柔軟なカリキュラムや多様な学びの場を提供することが必要となっています。

現在、学びの多様化学校の設置検討は行われていますが、具体的な内容や検討結果については、未だ示されていません。

・要望

1、 学校に行けない児童生徒が学びを再開できるように多様な学びの学校の早期整備。
2、 校内サポートルームとの連携強化。

多様な学びの学校の施策を連携させることで、児童生徒は個別のニーズに応じた柔軟な学びの選択肢を持つことができ、不登校傾向・不登校の児童生徒への支援を効果的に行うことが出来ます。

以上の施策により、不登校状態にある児童生徒への支援の向上をお願いいたします。

5）次世代に向けた子どもの育成のための富山型教育や ICT の活用推進

・背景

富山市の学校教育の方針にも示されている「主体性のある子どもの育成」、「富山型イエナプラン的教育の展開」、そして「GIG スクール構想(ICT の活用)」は、情報化社会を生き抜くために必要なスキルを児童生徒に養う上で非常に重要です。

実社会においてもデジタル化（DX 化）が進み、AI をはじめとするデジタル技術が日常に急速に浸透しています。このような時代において、児童生徒が自ら学ぶ力や ICT 活用能力を身に付けることが求められています。こうした状況の中で、富山型イエナプラン的教育と ICT 教育は、児童生徒の情報活用能力や問題発見・解決能力を育成するために重要な手段となっています。しかし、学校によってこれらの取り組みの進行度に格差が見られ、教育の質に地域差が生じているのが現状です。

・要望

1、 富山市内のすべての学校で、「富山型イエナプラン的教育」と「問題解決型学習（PBL)」のさらなる推進と、地域間で教育の質に差が出ないような環境整備。

2、 教員の意識改革を促進し、指導力向上のための研修や支援制度の拡充、および ICT 活用のスキル向上に向けた支援の強化。

地域差のない質の高い教育を受けられるよう環境整備をお願いいたします。

6）子どもたちの SNS トラブルへの対応と情報モラル教育の推進

・背景

近年のデジタル化の急速な進展に伴い、子どもたちの携帯電話の所有率が増加し、低年齢化も進んでいます。それに伴い、いじめや誹謗中傷、プライバシーの侵害、過度な利用時間、情報の信頼性やフェイクニュース、詐欺、携帯依存など多岐にわたる SNS トラブルが増加しています。特に、SNS が犯罪や薬物売買に利用されるケースが増えており、知識の乏しい子どもたちがその犯罪に巻き込まれるリスクが高まっています。

学校内では SNS によるいじめや人間関係の不調が原因で不登校になるケースが問題となっており、保護者にとっても心配の種でもあります。特に、SNS 内のいじめは、加害者と被害者の立場が入れ替わりやすく、実態が把握しにくいため、教員や保護者にとって適切な判断や対応が難しい課題となっています。

・要望

このようなトラブルに対処するためには、

1、 学校や家庭など周囲の大人が情報モラル教育を通じて、子どもたちにリスクを理解させ、SNS を安全に活用できる環境を整えるため、学校において情報モラル教育を定期的に実施すること。

2、PTA の「親学び」を通じて保護者が主体となって問題に取り組むこと。

3、行政による家庭向けの情報提供や教育支援を充実させ、保護者のサポートを行うこと。

子どもたちが安心してデジタル社会を活用できる環境づくりを推進していただきますようお願いいたします。

7）体育館および特別教室・支援教室への空調設備の整備

・背景

通常教室や職員室の空調設備の導入は進んでいる一方で、体育館や特別教室、支援教室への空調設備の設置は十分に進んでいません。

近年、平均気温上昇による熱中症のリスクが高まっており、運動中や授業中など、室内においてもその危険性が懸念されています。
さらに、災害時に体育館を避難所とする場合は、現状の体育館は断熱性能が確保されていないため、夏場には非常に高温になり、冬場は冷え込む環境となります。特に夏場の高温は、高齢者や幼児にとって生命に関わる重大な問題です。

・要望

このような状況を踏まえて、
1、 児童生徒が安全に学べる環境として、特別教室や支援教室、体育館への空調設備の設置。
2、 災害時の避難所として利用できるように、体育館の断熱性能の改修および空調設備の早急な整備。
以上により、児童生徒や地域住民の安全を守る環境を早急に整備していただけますようお願いいたします。

＜中学校に関すること＞

1） 部活動の地域移行に伴う学校施設の改修および保護者の経済的負担軽減

・背景

富山市教育委員会より、公立中学校の部活動の地域移行に関する方針が示され、2026 年度からは休日の部活動を原則実施せず、地域のスポーツ・文化団体の活動に参加できるよう、各学校は地域と連携を進めることが決定されました。しかし、この地域移行には活動場所、送迎、費用に関するいくつかの課題が残されています。
まず、活動場所については、特に教室などを利用する部活動では、休日に学校施設を利用することが難しくなる可能性があります。防犯上、他の教室に出入りせずに活動する必要があるほか、公共施設を利用する場合には一般の利用者との調整が求められます。さらに、吹奏楽部など、音響設備や空間に制限のある部活動では、他の施設利用において設備面での問題が生じる可能性もあります。
また、クラブチームなど地域の団体への参加が増加することが予想されるため、送迎や費用の問題、活動の運営支援など、保護者への負担が大きくなることが懸念されています。経済的理由や保護者の都合により、入部を断念する生徒が出てくる可能性もあります。

・要望

1、 部活動教室への専用出入口の設置や部活動専用の教室や施設の増設、または改修が必要です。学校施設を部活動の活動場所として引き続き利用できる対策。
2、 家庭の負担軽減を図るため、クラブチーム加入者への補助金の支給や送迎に関する公的支援の整備。
これらの対策により、地域移行がスムーズに進むための環境整備をお願いいたします。

2） 子どもたち自らが将来を描けるキャリア教育・校外活動の推進

・背景

子どもたちが将来の進路や職業について早い時期から考えることは非常に重要です。将来のビジョンは、様々な経験や体験を通じて形成されることが多いため、職業体験である「14 才の挑戦」や「社会科見学」などの郊外活動は、子どもたちの経験形成において欠かせないものです。しかし、近年では郊外活動が縮小傾向にあります。

さらに、今年度に当協議会が実施した保護者アンケートでは、「自己分析や将来の夢を考える授業」や「社会で役立つスキルを学ぶ授業」への要望が高い結果となりました。保護者からは、社会的自立に必要な基盤を築く教育を求める声が多く寄せられました。
これらを効果的に進めるためには、子どもたちの成長段階に応じた目標設定や、一貫性を持たせた継続的な学習が重要です。そのために、キャリアパスポートを活用し、学習状況を記録・振り返る仕組みを整え、子どもたちの成長をサポートすることが求められます。

・要望

1、「14 才の挑戦」を含む多様な郊外活動を実施し、子どもたちへ多くの経験を提供すること。
2、 学習状況の記録や振り返りを効果的に行うため、キャリアパスポートの活用指針を明確化し、各学校で一貫した運用を実施すること。

これらにより、子どもたちの経験を得る機会を増やし、将来の目標設定に役立つ教育の整備をお願いいたします。

3） 家庭学習の充実と学校・家庭の連携強化

・背景

最近の家庭学習は習慣化というより、形骸化してきている傾向が見られます。学校教育と家庭教育が異なる取り組みを行う場合、効果的な学習は期待できません。そのため、学校教育と家庭教育の連携を強化することが、子どもたちの学習効果を高めるために非常に重要であると考えます。
しかし、家庭教育における適切な学習方法を理解するためには、学校の協力が欠かせません。本年度の当協議会の保護者アンケートでは、42.1%の保護者が家庭での教育に直接関わっていない結果となりました。これは、保護者の家庭環境や意識の違いにより、学習指導に積極的に取り組むことが難しい状況であることを示しています。

・要望

1、 学校や市が家庭教育に役立つ情報や具体例を発信し、保護者が相談できる環境の整備。
2、 富山県作成の「家庭学習のすすめ」というリーフレットなども活用して、家庭学習の重要性を広く周知。
子どもたちの家庭での学習を支えられる環境を整えていただけますようお願いいたします。

＜保護者や地域に関すること＞

1） 「tetoru」の運用改善と機能追加

・背景

近年、学校の配布物やお知らせなどが「tetoru」による配信へと移行しつつあります。しかし、一部の学校では利用方法に制限があり、学校ごとに保護者への情報提供に格差が生じているのが現状です。
こうした状況の背景には、「tetoru」が当初、緊急連絡を目的として導入された経緯があります。現在の「tetoru」には緊急情報とそれら以外の情報を区別する機能が備わっていないため、日常的な連絡での使用を躊躇する学校もあります。その結果、学校間での運用に差が生じ、保護者への情報提供にばらつきが生まれています。
また、以前は連絡帳を通じた教員との情報交換が、Chromebook の導入により減少している学校が増え、教員と保護者との連絡手段が不足している現状も課題となっています。

・要望

1、「tetoru」において、緊急情報とその他の連絡を区別できる機能の追加。

2、運用基準の策定を行い、学校ごとの利用差を減らすこと。

3、保護者と教員が気軽に連絡できるような環境整備。

これらの改善により、保護者と学校間の円滑な情報共有を実現していただけますようお願いいたします。

2）学校教育における地域・保護者の交流促進のための「親学び」関係事業への助成

・背景

これからの学校教育には地域や保護者の参加が求められています。PTA は地域と学校をつなぐ橋渡し役として重要な役割を果たし、「親学び」を通じて、保護者の交流を深める場を提供しています。

しかし、以前に比べ、保護者同士や保護者と教員の関係性が希薄化している現状があります。また、PTA の会員減少やイベントの縮小による活動費の減少が進み、今後の PTA 活動がさらに縮小していくことが懸念されています。

・要望

「親学び」的な事業を通じて保護者や地域、学校との交流を深めるためにも

1、PTA の「親学び」関係事業に対する支援。

地域全体で子どもたちを支える教育環境を構築するためにも、まずは保護者同士の関係構築のための環境整備への支援をお願いいたします。

3）見守り活動継続のための交通安全プログラムの情報周知、環境整備および継続支援

・背景

今年度に当協議会が実施した保護者アンケートの「地域が学校に提供できるサポート」として、地域の安全・見守りの関する意見が多くありました。

地域では「見守りボランティア」による、通学路の安全を見守る活動が行われていますが、老人クラブの高齢化や PTA 会員の減少により、活動に参加できる人が減少し、継続が難しくなっている現状があります。

こうした状況の中、見守り活動を継続するには、活動の効率化、交通安全プログラムの活用、人的支援など、環境整備が必要となります。中でも、交通安全プログラムは認知度が低く、情報が PDF 形式で提供されていることが原因の一つと考えられます。

・要望

1、地図アプリとの連動による情報の一元化を行い、危険個所の状況や対策状況などをリンクすることで、スマートフォンや Chromebook から利用しやすい環境の整備。

2、ボランティアが不足している地域では、一定の雇用契約による地域人材の導入を促すなど、地域で子どもたちの見守り活動が継続できる体制や新たな支援に向けた取り組み。

見守り活動の継続と通学路の安全確保のため、行政による持続可能な支援策の導入をお願いいたします。

4）放課後の子どもの居場所確保と学童保育の充実

・背景

放課後から保護者が帰宅するまでの子どもの居場所が依然として不足しています。今年度に当協議会が実施した保護者アンケートでは、開設時間や在籍年齢に関する要望、学童の設置拡大を求める回答が全保護者の64.3%と高い割合を占めました。

フルタイムで働く保護者にとって、子ども会の預かり時間の短さは大きな課題です。そのため民間の放課後児童クラブを利用する家庭が増えていますが、子ども会に比べて利用料金が高額であり、家計にとっては大きな負担となっています。この、負担の軽減と子どもたちの放課後の居場所の確保は重要な課題です。

・要望

利用者の負担を減らし、子どもたちの居場所をより確保するために、

1、 公立学童保育（子ども会）の運営時間を延長すること。

2、 民間学童（放課後児童クラブ）への助成を拡充することで利用料金の減額。

昨年に引き続き、利用者の時間的負担と経済的負担の軽減を本年度も再度お願いいたします。

5）コミュニティ・スクール(CS)の運営と地域参画の推進

・背景

現在のコミュニティ・スクール(CS、学校運営協議会)の活動は、地域によっては十分な周知がされておらず、地域や保護者にとって有効に機能していない状況が見受けられます。本来は学校の運営方針について、運営協議委員である地域や保護者の代表者が、一定の理解のもとで学校運営に参画し、子どもたちのために地域も協力しながら取り組んでいくものですが、地域や保護者にはその役割や内容が十分に認知されていません。そのため、学校がより有効な取り組みをしようとしても地域資源の活用や保護者の理解と協力を十分に得ることができず、結果、子どもたちへの教育にもせっかくの機会等が減ってしまう可能性があります。

・要望

1、 コミュニティ・スクール(CS)の活動について、保護者や地域住民への周知を図るとともに、より地域が参画しやすい取り組みが実施できるよう、そのための予算配分（事務費以外）をお願いいたします。

各地域の有用な特徴ある地域資源を活用することは、子どもたちにとっても貴重な体験や郷土についての学びの機会になることにつながります。さらには、地域や保護者との信頼関係の醸成にもつながり、今後の教育行政への前向きな理解と協力となり、結果、子どもたちにとっても地域全体がより良い教育環境になり得ます。

＜先生（応援）に関すること＞

1）教員の教務負担軽減とスクール・サポート・スタッフ(SSS)の拡充

・背景

教員一人当たりの校務負担が増加する中、教員をサポートするスタッフの役割はますます重要性を増しています。しかし、現行の勤務条件では、スクール・サポート・スタッフ(SSS)の週当たりの労働時間が 16 時間、年間 680 時間が上限とされており、この制限が課題のひとつとなっています。

短時間の勤務では簡単な仕事しか依頼できず、必要な業務を時間外に頼むことが難しいため、教員の一日の業務サイクルに合わない問題が生じています。

・要望

1、 スクール・サポート・スタッフ(SSS)の労働時間の延長。

2、 学びのボランティアなどの支援体制の充実が必要。

3、 市から県に対して積極的な働きかけ。

これらの取り組みを通じて、教員の負担軽減と学校現場の効率的な運営の実現をお願いいたします。

2） デジタル採点システムの導入による教職員の負担軽減

・背景

現在、デジタル採点システムは一部の学校のみ導入・運用されています。その運用には PTA や後援会などの予算が使用されているケースが見受けられます。

このシステムは教員の採点業務を効率化し、作業時間を大幅に短縮することができます。これにより、教員が本来の教育活動に専念できる環境が整い、削減された時間を子どもたちへの指導やサポートに充てられるため、よりきめ細かな教育の実現に寄与しています。

・要望

1、全額を富山市の予算において、このデジタル採点システムの全校への導入をお願いいたします。

既に導入している学校では、教職員の負担軽減に効果が出ており、これにより、子どもたちの教育の質向上や児童生徒との時間が確保できる環境が整います。

3） 学校運営のための学校の自由裁量予算の確保

・背景

学校の予算は、使途が厳密に定められており、予期せぬ活動や備品の購入に柔軟に対応することが困難です。また、教員の教材研究や自主研修の費用を私費で負担しているケースも見受けられます。

さらに、今後、コミュニティ・スクール（CS、学校運営協議会）が中心となり、地域との連携を強めた学校運営が求められています。地域の特色を活かした教育や行政が追い付かない支援人材のサポート等を含めて、それぞれの学校が地域の様々な資源を活かした取り組みを行い、より充実した学びの環境を整備するためには、コミュニティ・スクール(CS)または校長に自由裁量で使える一定の予算が必要です。

・要望

1、 学校が円滑に運営され、より充実した学びの環境を整備するために、校長やコミュニティ・スクール(CS)が自由裁量で使える一定の予算をお願いいたします。

この施策により、学校運営の円滑化と学びの環境整備を進めることができます。子どもたちにとってより良い教育環境の実現のため、地域との連携に配慮した教育予算の確保をお願いいたします。

本要望書へ教育現場や地域の実情を反映するため、以下の活動を行いました。

1. アンケート実施/回答集計	実施日： 7月 3日(水)～7月15日(日)
2. 富山市教育委員会との懇談会	実施日： 7月 23日(火)
3. 小学校長会との懇談会	実施日： 7月 30日(火)
4. 中学校長会との懇談会	実施日： 8月 21日(水)
5. 富山市議会議員との懇談会	実施日： 11月 7日(木)

本要望書の作成にあたり、多くの皆様から貴重なご意見をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

「教育・子育てに関するアンケート結果」 R6.7.15

第１章　調査の概要

1. 調査の目的

　本年度の富山市 PTA 連絡協議会の教育子育てに関する研究テーマの案に基づき、子供たちの教育環境改善のためのより良い意見の集約を目的としており、富山市及び富山市教育委員会に提出する要望書の参考とする。

2. 調査対象

　富山市内小中学校の全保護者（富山市内 PTA 会員）　約 26,000 人

3. 調査期間

　令和 6 年 7 月 3 日　～　令和 6 年 7 月 15 日

4. 調査方法

　各小中学校を通じて、tetoru 及び調査表の配布

5. アンケートの回答率

　回答数 7,931 人　（回答率　30.5%）

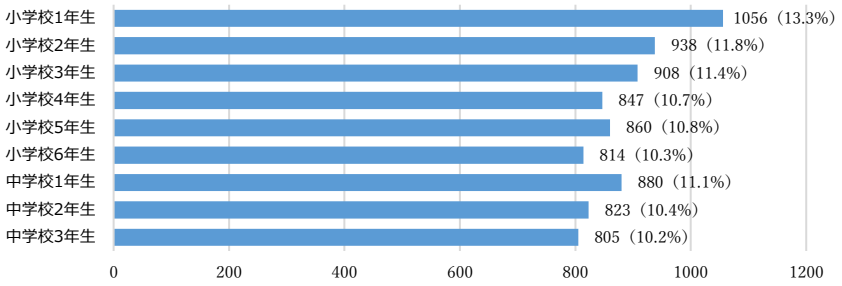
6. 調査結果に関する注意点

・調査結果の数値は、小数第 2 位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても 100%にはならない場合があります。

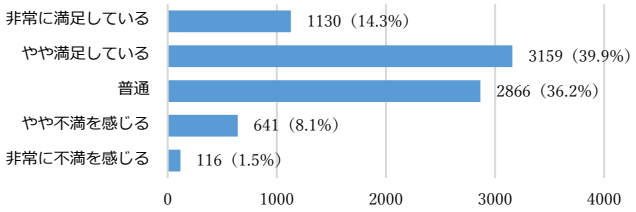
・複数回答の数値に関しては、母数を回答者数としております。内訳を合計しても 100%にはなりません。

第２章　アンケート結果

問1　　お子さまの学年を教えてください。



問2　　お子さまの学校生活または成長をみて、今の学校教育について満足していますか？

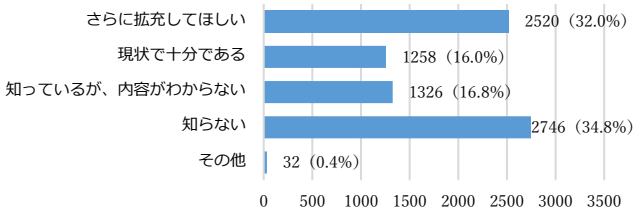


□非常に満足している（14.3%）、やや満足している（39.9%）と満足していると回答した人は 54.2%と半数を超えている。

□普通と回答した人は（36.2%）となった。

□やや不満を感じる（8.1%）、非常に不満を感じる（1.5%）と不満を感じると回答した人は 9.6%と低い結果となった。

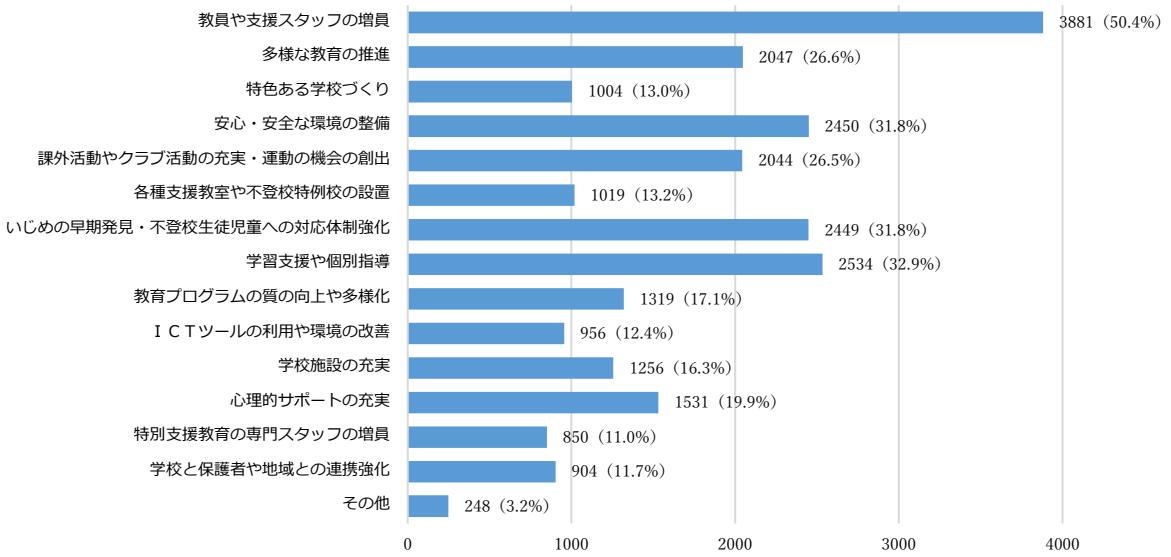
問3　　富山市の多様な教育についてお聞かせください。



□さらに拡充してほしい（32.0%）、現状で十分であるは（16.0%）となった。

□知っているが、内容がわからない（16.8%）、知らない（34.8%）と内容を知らないと回答した人は 51.6%と半数を超える。

問4　　学校がよりきめ細かい対応をするために、現在不足していることや、今後必要なことをお聞かせください。（複数選択可）

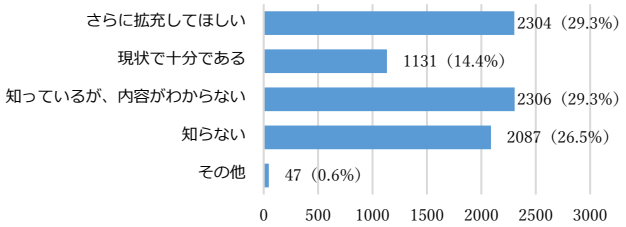


□教員や支援スタッフの増員（50.4%）が一番求められる結果となった。

□学習支援や個別指導（32.9%）、安心・安全な環境の整備（31.8%）、いじめの早期発見・不登校生徒児童への対応体制強化（31.8%）、多様な教育の推進（26.6%）、課外活動やクラブ活動の充実・運動の機会の創出（26.5%）と高い結果を示した。

□特色ある学校づくり（13.0%）、各種支援教室や不登校特例校の設置（13.2%）、教育プログラムの質の向上や多様化（17.1%）、ＩＣＴツールの利用や環境の改善（12.4%）、学校施設の充実（16.3%）、心理的サポートの充実（19.9%）、特別支援教育の専門スタッフの増員（11.0%）、学校と保護者や地域との連携強化（11.7%）と同程度となった。

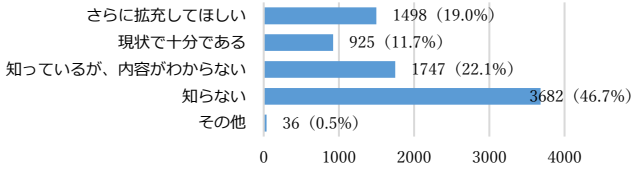
問5　学びの多様化学校（不登校特例校）や不登校児童対応クラス、学校内支援センター設置校の施策についてお聞かせください。



□さらに拡充してほしい（29.3%）、現状で十分である（14.4%）となった。

□知っているが、内容がわからない（29.3%）、知らない（26.5%）と内容を知らないと回答した人は 55.8%と半数を超える。

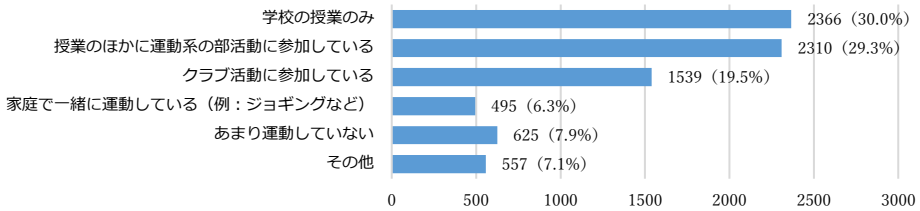
問6　現在の学校に設置導入が進められているサポートルームについてお聞かせください。



□さらに拡充してほしい（19.0%）、現状で十分である（11.7%）となった。

□知っているが、内容がわからない（22.1%）、知らない（46.7%）と内容を知らないと回答した人は 68.8%と半数を超える。

問7　子どもの学校や家庭での運動の機会や運動習慣についてお聞かせください

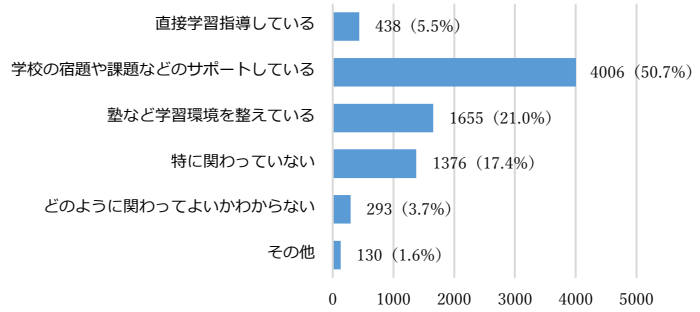


□学校の授業のみ（30.0%）、あまり運動していない（7.9%）と運動をあまりしていないと回答した人は 37.9%となった。

□授業のほかに運動系の部活動に参加している（29.3%）、クラブ活動に参加している（19.5%）と運動系の部活・クラブに所属していると回答した人が 48.8%となった。

□家庭で一緒に運動している（例：ジョギングなど）（6.3%）となった。

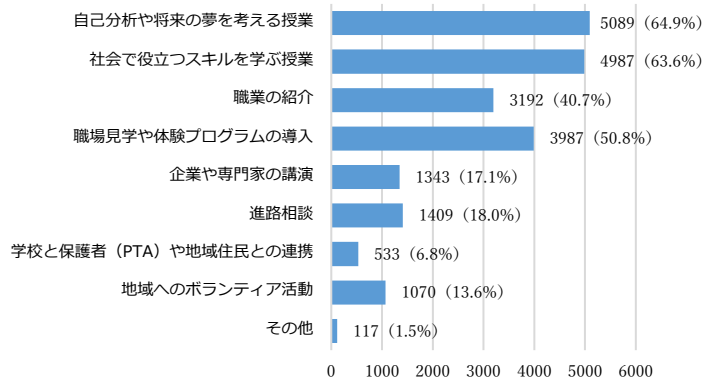
問8　　ご家庭での学習にどのように関わっていますか？



□学校の宿題や課題などのサポートしている（50.7%）と一番高い結果となった。また、直接学習指導している（5.5%）、塾など学習環境を整えている（21.0%）と家庭での学習に関わっていると回答した人は 77.2%となった。

□特に関わっていない（17.4%）、どのように関わってよいのかわからない（3.7%）と関わっていないと回答した人は 21.1%となった。

問 9　　子どもの将来のため、キャリア教育に必要な活動や取組みについて、お聞かせください。（複数回答可）

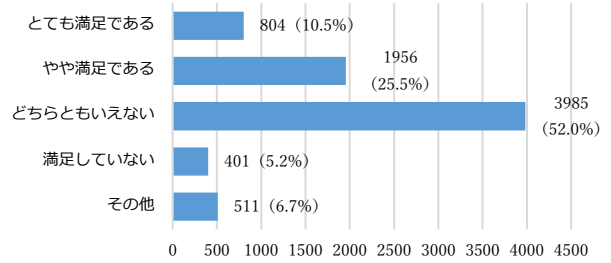


□自己分析や将来の夢を考える授業（64.9%）、社会で役立つスキルを学ぶ授業（63.6%）自己理解・自立する力に関する回答が上位となった。

□職場見学や体験プログラムの導入（50.8%）、職業紹介（40.7%）と職業体験に関する項目が上位となった。

□企業や専門家の講演（17.1%）、進路相談（18.0%）、地域へのボランティア活動(13.6%)、学校と保護者(PTA)、地域住民との連携（6.8%）との回答結果となった。

問 10　　学校での部活動の状況や取組みについてお聞かせください？

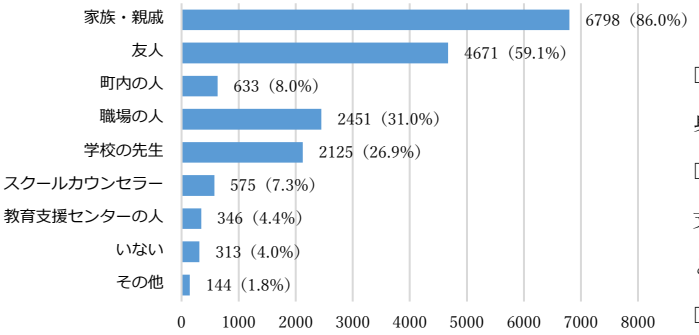


□どちらともいえない（52.0%）と一番高い結果となった。

□とても満足である（10.5%）、やや満足である（25.5%）と満足であると回答した人は 36.0%であった。

□満足していない（5.2%）となった。

問11　教育や子育てに関して相談できる人または相談したい人はいますか。（複数回答可）

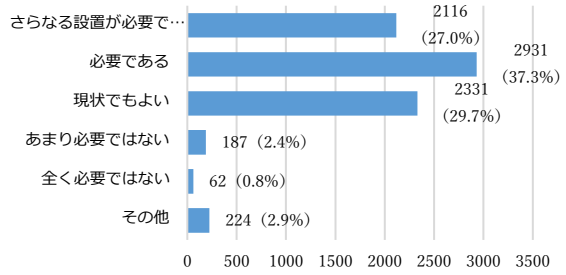


□家族・親戚（86.0%）、友人（59.1%）、職場の人（31.0%）と身近な人が高い結果となった。

□学校の先生（26.9%）、スクールカウンセラー（7.3%）、教育支援センターの人（4.4%）と学校や公共の相談口の人は 38.6%となった。

□町内の人（8.0%）となった。

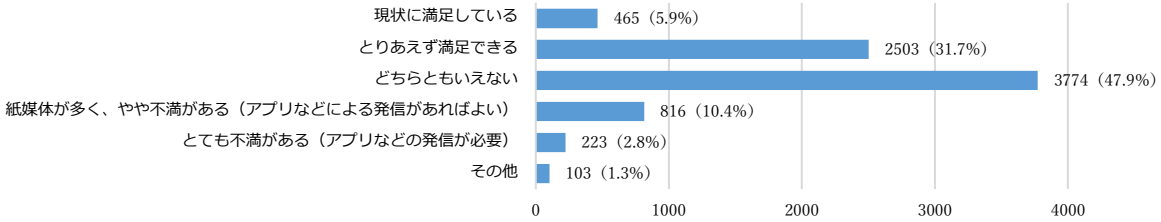
問 12　学童の設置拡大（民間事業者の新規参入制度の創設など）についてお聞かせください。



□さらなる設置が必要である（27.0%）、必要である（37.3%）と必要であると回答した人は 64.3%と半数を超える。

□現状でもよい（29.7%）、あまり必要ではない（2.4%）、全く必要ではない（0.8%）と拡充は必要ではないと回答した人は 32..9%となった。

問 13　子育て世代への支援に関する情報発信についてお聞かせください。

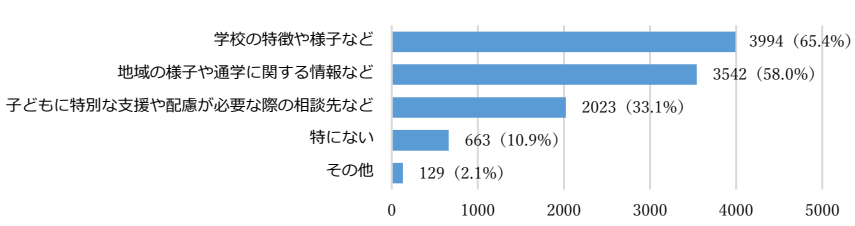


□どちらともいえない（47.9%）と一番高い結果となった。

□現状に満足している（5.9%）、とりあえず満足できる（31.7%）と満足できると回答した人が 37.6%となった。

□紙媒体が多く、やや不満がある（アプリなどによる発信があればよい）（10.4%）、とても不満がある（アプリなどの発信が必要）（2.8%）と不満がある人は 13.2%と少ない結果となった。

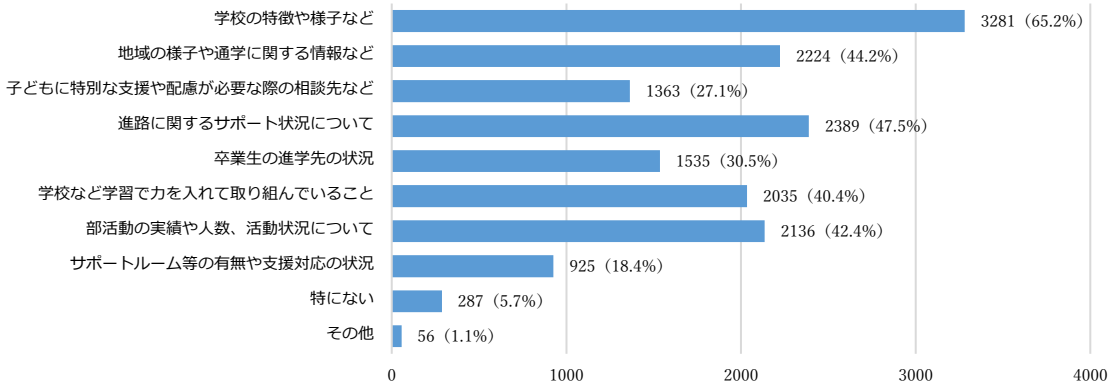
問 14　小学校に進学する際に必要な情報についてお聞かせください。（複数回答可）
（小学生のお子さんをお持ちの方だけお答えください。）回答数 6,108 件



□学校の特徴や様子など（65.4%）、地域の様子や通学に関する情報など（58.0%）が高い結果となった。

□子どもに特別な支援や配慮が必要な際の相談先など（33.1%）、特にない（10.9%）となった。

問 15　中学校に進学する際に必要な情報についてお聞かせください。（複数回答可）（中学生のお子さんをお持ちの方だけお答えください。）回答数 5,034 件

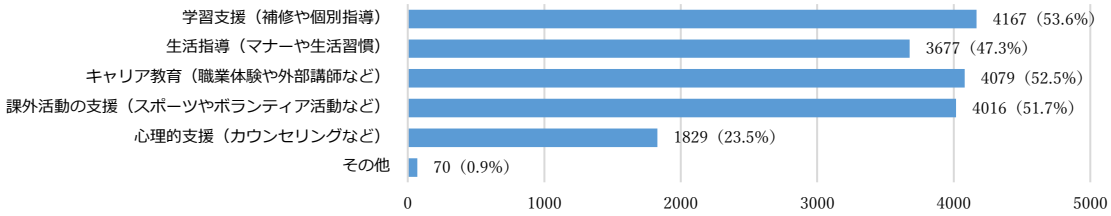


□学校の特徴や様子など（65.2%）が一番高い結果となった。

□進路に関するサポート状況について（47.5%）、地域の様子や通学に関する情報など（44.2%）、部活動の実績や人数、活動状況について（42.4%）、学校など学習で力を入れて取り組んでいること（40.4%）が高い結果となった。

□卒業生の進学先の状況（30.5%）、子どもに特別な支援や配慮が必要な際の相談先など（27.1%）、サポートルーム等の有無や支援対応の状況（18.4%）、特にない（5.7%）となった。

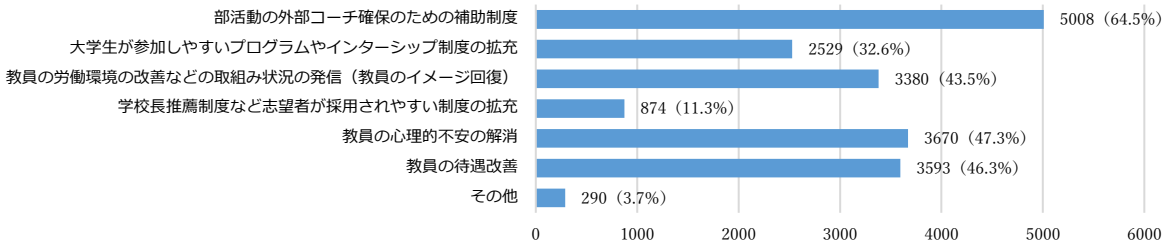
問 16　きめ細かい対応の実現のため、地域人材が学校に提供できるサポートとして、どの分野が有効だと思われますか？（複数回答可）



□学習支援（補修や個別指導）（53.6%）、生活指導（マナーや生活習慣）（47.3%）、キャリア教育（職業体験や外部講師など（52.5%）、課外活動の支援（スポーツやボランティア活動など）（51.7%）と同程度の高い結果となった。

□心理的支援（カウンセリングなど）（23.5%）と他と比べて少し低い結果となった。

問 17　近年の教員不足や多忙化解消のために必要だと思うことをお聞かせください。（複数回答可）



□部活動の外部コーチ確保のための補助制度（64.5%）と一番高い結果となった。

□教員の心理的不安の解消（47.3%）、教員の待遇改善（46.3%）、教員の労働環境の改善などの取組み状況の発信（教員のイメージ回復）（43.5%）と教員の働く環境に関する回答が上位となった。

□大学生が参加しやすいプログラムやインターシップ制度の拡充（32.6%）、学校長推薦制度など志望者が採用されやすい制度の拡充（11.3%）となった。

問 18 特に要望したい事柄について、その要望とその理由を具体的に約 20 文字程度で簡潔にご記入ください。

◇学校の教育環境に関すること＜サポートスタッフ（25）、多様な学び（35）、学校教育や教育環境（93）、クラス規模（19）＞

◇学校教育に関すること＜ICT 教育（30）、キャリア教育（21）＞◇通学に関すること（47）◇家庭教育に関すること（7）

◇学校施設に関すること（22）◇子どもの体験活動に関すること＜課外活動や郊外活動、学校行事（25）、プール（11）＞

◇学校再編に関すること（13）◇不登校支援に関すること（35）◇いじめに関すること（27）◇特別支援に関すること（49）

◇学校生活に関すること＜給食（9）、制服（6）、校則（5）＞◇部活動に関すること（58）◇保護者に関すること（7）

◇子育て支援に関すること（21）◇学童に関すること（71）◇子どもの居場所に関すること（8）◇PTA に関すること（26）

◇教師と保護者に関すること（25）◇学校の情報発信に関すること（25）◇そのた（53）

◇教員の質や働き方に関すること＜教員に関すること（94）、教科担任制や副担任制（6）、教員の働き方改革（69）、教員の待遇（22）＞